



# きんひが通信

令和元年12月23日

<第35号>

校長 平塚智康

## 実りの秋から蓄える冬へ

師走に入り、季節はすっかり冬めいてまいりました。

秋には、様々な体育的行事・文化的行事・コンクール・催し等がありました。子どもたちはそれぞれの個性や持ち味、得意な部分を生かしながら、自分らしさを発揮し、たくさんの収穫を得ることができたように思います。

そして、寒い冬に入ります。冬は、「根っこ」を鍛える季節です。基礎学力、道徳的感性、社会性、忍耐力、人間関係力・・・人間としての根幹となる「根っこ」をしっかり伸ばしていきたいものです。冬の間「根っこ」をしっかりと土の中に張っておかないと、春になって美しい花を咲かせることも、青々とした葉を繁らすこともできません。

人間としての「根っこ」を鍛えるために、学校としてしなければいけないこと、家庭と協力しながらやっていくことを考えながら日々の教育にあたっていきたいと思っています。

2学期間、保護者の皆様には、本校の教育活動・PTA活動に対して、多大なるご支援とご協力、ご理解を賜りまして、誠にありがとうございました。

25日から冬休みに入りますが、どうぞ家族団らんの温かいお正月をお迎えください。そして、1月8日には、家庭のあったかいエネルギーをたくさん充電して、さらに元気いっぱい・やる気いっぱいになった子どもたちとの再会を楽しみにしています。



<1年生 食育の研究授業>



<2年生 さつまいもほり>

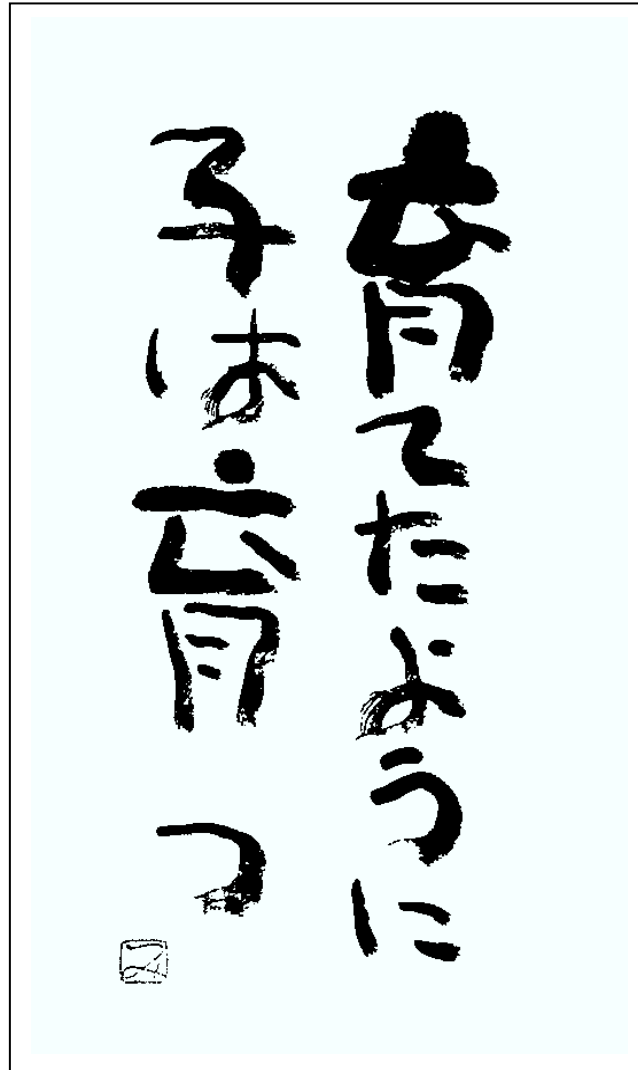


<4年生 福祉の体験学習>



<大聖寺お宝探検クラブ 和菓子作り>

## 2 学期通知表渡しにあたって



親や教師や大人たちが、自分たちの思い通りに子どもを育てれば、子どもたちは他者の思い通りにしか行動できない人間になる。自主性、主体性、創造性といったものは、当然育つはずがない。

まず、子どもたちは、人と自分を信じることができるように、人生の最初に無条件の愛情に恵まれてから、上等の手本を見せられながら、社会の規範をゆっくり穏やかに教えられるのがいいのだろう。

時代や文化の影響を自分の力で上手に取捨選択できるように、自分の存在価値を実感できるような子どもにしておいてやればよいと思う。

**あなたはあなたのままで、他にかけがえのない価値がある。君は君の道を、ただひたすらに歩めば、それで十分である。与えるべきメッセージはそれだけであろう。**

結局は、子どもたちは、育てたように育っていく、育っていつてくれる。そう信じられる親になりたい、大人になりたいと思う。

【相田みつを いのちのことは「育てたように子は育つ」より

書：相田みつを 著：佐々木 正美（精神科医）】